



⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命, Society 5.0, データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり, それが自らの生活と密接に結びついている</p>	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ, IoT, AI, 生成AI, ロボット 「IT基礎講座」(1~15回目)「情報リテラシーII」(1, 2回目)</li> <li>・データ量の増加, 計算機の処理性能の向上, AIの非連続的進化 「IT基礎講座」(2, 8, 15回目)「情報リテラシーII」(1, 2回目)</li> <li>・第4次産業革命, Society 5.0, データ駆動型社会 「IT基礎講座」(2, 15回目)「情報リテラシーII」(1, 2回目)</li> <li>・複数技術を組み合わせたAIサービス 「IT基礎講座」(3, 9, 11, 13回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性 「IT基礎講座」(1, 14回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> <li>・データを起点としたものの見方, 人間の知的活動を起点としたものの見方 「IT基礎講座」(1~6, 9~11, 13~15回目)「情報リテラシーII」(1, 2, 5~12, 14, 15回目)</li> </ul> <p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI最新技術の活用例(深層生成モデル, 強化学習, 転移学習, 生成AIなど) 「IT基礎講座」(1, 8, 10, 14回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー, 商品のレコメンデーションなど) 「IT基礎講座」(3, 8, 14回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> </ul>
<p>(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって, 日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p>	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ, 実験データ, 人の行動ログデータ, 機械の稼働ログデータなど 「IT基礎講座」(7, 8回目)</li> <li>・1次データ, 2次データ, データのメタ化 「IT基礎講座」(7回目)「情報リテラシーII」(4回目)</li> <li>・構造化データ, 非構造化データ(文章, 画像/動画, 音声/音楽など) 「IT基礎講座」(7, 8回目)</li> <li>・データ作成(ビッグデータとアノテーション) 「IT基礎講座」(11回目)「情報リテラシーII」(4回目)</li> <li>・データのオープン化(オープンデータ) 「IT基礎講座」(2, 3, 7, 9~11, 13, 15回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> </ul> <p>1-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(生産, 消費, 文化活動など) 「IT基礎講座」(3, 7, 9~13回目)</li> <li>・研究開発, 調達, 製造, 物流, 販売, マーケティング, サービスなど 「IT基礎講座」(3, 9~11, 13回目)</li> <li>・仮説検証, 知識発見, 原因究明, 計画策定, 判断支援, 活動代替, 新規生成など 「IT基礎講座」(3, 9~11, 13回目)</li> <li>・対話, コンテンツ生成, 翻訳・要約・執筆支援, コーディング支援など生成AIの応用 「IT基礎講座」(3, 9~11, 13回目)</li> </ul>
<p>(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され, 様々な適用領域(流通, 製造, 金融, サービス, インフラ, 公共, ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>1-4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析: 予測, グルーピング, パターン発見, 最適化, モデル化とシミュレーション・データ同化など 「IT基礎講座」(8回目)</li> <li>・データ可視化: 複合グラフ, 2軸グラフ, 多次元の可視化, 関係性の可視化, 地図上の可視化, 挙動・軌跡の可視化, リアルタイム可視化など 「IT基礎講座」(8回目)</li> <li>・非構造化データ処理: 言語処理, 画像/動画処理, 音声/音楽処理など 「IT基礎講座」(8回目)</li> <li>・特化型AIと汎用AI, 今のAIで出来ることと出来ないこと, AIとビッグデータ 「IT基礎講座」(1, 14回目)</li> <li>・認識技術, ルールベース, 自動化技術 「IT基礎講座」(8回目)</li> <li>・マルチモーダル(言語, 画像, 音声など), 生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング) 「IT基礎講座」(10, 15回目)</li> </ul> <p>1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化, データの取得・管理・加工, 探索的データ解析, データ解析と推論, 結果の共有・伝達, 課題解決に向けた提案) 「IT基礎講座」(3, 7, 9~11, 13回目)</li> <li>・教育, 芸術, 流通, 製造, 金融, サービス, インフラ, 公共, ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介 「IT基礎講座」(3, 7, 9~11, 13回目)</li> </ul>

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI, 個人情報, データ倫理, AI社会原則等)を考慮し, 情報セキュリティや情報漏洩等, データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) 「IT基礎講座」(12回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> <li>・個人情報保護, EU一般データ保護規則(GDPR), 忘れられる権利, オプトアウト 「IT基礎講座」(12回目)「情報リテラシーII」(13回目)</li> <li>・データ倫理: データのねつ造, 改ざん, 盗用, プライバシー保護 「IT基礎講座」(12回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> <li>・AI社会原則(公平性, 説明責任, 透明性, 人間中心の判断) 「IT基礎講座」(12回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> <li>・データバイアス, アルゴリズムバイアス 「IT基礎講座」(12回目)</li> <li>・AIサービスの責任論 「IT基礎講座」(12回目)</li> <li>・データガバナンス 「IT基礎講座」(12回目)</li> <li>・データ・AI活用における負の事例紹介 「IT基礎講座」(12回目)「情報リテラシーII」(2回目)</li> <li>・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成, 偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など) 「IT基礎講座」(1, 10, 12, 14回目)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティの3要素(機密性, 完全性, 可用性) 「IT基礎講座」(12回目)</li> <li>・匿名加工情報, 暗号化と復号, ユーザ認証と, パスワード, アクセス制御, 悪意ある情報搾取・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 「IT基礎講座」(12回目)「情報リテラシーII」(13回目)</li> <li>・サイバーセキュリティ 「IT基礎講座」(12回目)「情報リテラシーII」(13回目)</li> </ul>
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など, 社会での実例を題材として, 「データを読む, 説明する, 扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの種類(量的変数, 質的変数) 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(4~8回目)</li> <li>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値, 中央値, 最頻値) 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(7~10回目)</li> <li>・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(7回目)</li> <li>・データのばらつき(分散, 標準偏差, 偏差値), 外れ値 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(8~10回目)</li> <li>・相関と因果(相関係数, 擬似相関, 交絡) 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(10回目)</li> <li>・観測データに含まれる誤差の扱い 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(8, 9回目)</li> <li>・打ち切りや欠測を含むデータ, 層別の必要なデータ 「IT基礎講座」(5回目)</li> <li>・母集団と標本抽出(国勢調査, アンケート調査, 全数調査, 単純無作為抽出, 層別抽出, 多段抽出) 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(4回目)</li> <li>・クロス集計表, 分割表, 相関係数行列, 散布図行列 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(6, 10回目)</li> <li>・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない) 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(5, 6, 9回目)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ表現(棒グラフ, 折線グラフ, 散布図, ヒートマップ, 箱ひげ図) 「IT基礎講座」(4~6, 8回目)「情報リテラシーII」(3, 5~10回目)</li> <li>・データの比較(条件をそろえた比較, 処理の前後での比較, A/Bテスト) 「IT基礎講座」(12回目)「情報リテラシーII」(5, 6回目)</li> <li>・不適切なグラフ表現(チャートジャンク, 不必要な視覚的要素) 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(3, 5, 10回目)</li> <li>・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) 「IT基礎講座」(4~6回目)「情報リテラシーII」(3, 10回目)</li> <li>・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成, プレゼンテーションなど) 「情報リテラシーII」(3, 11, 12, 14回目)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法) 「情報リテラシーII」(5~10回目)</li> <li>・データの集計(和, 平均) 「情報リテラシーII」(5~10回目)</li> <li>・データの並び替え, ランキング 「情報リテラシーII」(5回目)</li> <li>・データ解析ツール(スプレッドシート, BIツール) 「情報リテラシーII」(6回目)</li> </ul>

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

「情報」の既習事項を踏まえた復習・深化学修を通じて, 現代社会における数理・データサイエンス・AIの利活用状況についての知識を得るとともに, 基礎的なデータ整理・分析方法やグループディスカッション, プレゼンテーションなどの実体験を伴った技術を修得する。また, それら知識・技術を活用する際の留意事項を理解する。これらの学修を通して, 日常生活や仕事といった社会生活の場で, 自らの意志をもって数理・データサイエンス・AI(生成AI含む)の技術を活用し, 恩恵を得られる素養を身につける。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
健康社会学部・現代人間学科	40	13	70	70	40	0											40	57%
健康社会学部・健康スポーツ学科	49	9	70	70	49	0											49	70%
看護学部看護学科	64	54	80	80	64	0											64	80%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	153	76	220	220	153	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	153	70%

## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

## ① 全学の教員数

(常勤)	53	人
(非常勤)	98	人

## ② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

3	人
---	---

## ③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	坂原明
(役職名)	学長

## ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部情報教育センター-数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会
------	--

## ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部情報教育センター-数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会設置要綱
------	--

## ⑥ 体制の目的

聖カタリナ大学における本プログラムの推進を継続的かつ効果的に行うとともに、その内容の改善・進化を図り、自己点検および評価を組織的に行うことを目的とする。これにより、全学的な教育水準の維持と向上を図りながら、数理・データサイエンス・AIリテラシー教育を持続的に発展させる体制を整備している。さらに、社会動向の変化や関連技術の進展を踏まえ、教育内容の定期的な見直しや外部有識者等との連携も視野に入れた運営を図る。これらを通じて、自らの意志をもって数理・データサイエンス・AIの技術を活用し、恩恵を得られる素養を学生が身につけられるように支援する。

なお、本専門部会の上部組織である聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部情報教育センターは、本学における情報教育研究・情報リテラシー教育・学術情報サービス・情報通信および情報事務に必要な情報処理機能を提供し、教育研究および大学運営を総合的に支援している。

## ⑦ 具体的な構成員

本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の運営に携わる構成員は以下の通りである。

健康社会学部現代人間学科 教授 田村昌彦  
 健康社会学部現代人間学科 准教授 黒田卓哉  
 健康社会学部現代人間学科 助教 島村真理子  
 健康社会学部健康スポーツ学科 教授 皆川孝昭  
 看護学部看護学科 講師 齋藤希望  
 短期大学部保育学科 助教 荒西伸吾  
 健康社会学部健康スポーツ学科 看護学部看護学科 兼任教員 高山小百合  
 会計課 池田哲  
 教務課 砂野佑介  
 事務局 稲田有伊子

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	22%
令和8年度予定	25%
令和9年度予定	33%
令和10年度予定	40%
令和11年度予定	50%

具体的な計画

目標を実現するために、情報リテラシーⅡおよびIT基礎講座の教育方法の工夫や授業時間内外での学習サポート体制の充実、さらに学生への周知活動の強化を計画的に推進するよう試みる。

両科目における教育方法の工夫としては、学生が主体的に参加しやすいアクティブラーニングの形式を検討するとともに、成績評価に用いる課題の指導体制およびサポート体制を整備し、授業時間内外において教員に指導や学修支援を求めやすい体制となるよう改善を図る。特に、全学生が確実に履修する必修科目である情報リテラシーⅢについては、学生が円滑に本科目を修得できるよう、学修支援体制をより向上させるための改善検討を進めていく。一方で、IT基礎講座については、立地が離れた別キャンパスでの同時受講を円滑に行うため、Webを介したビデオ会議システムを活用した遠隔授業形式の導入を進める。

また、学生への周知については、全学的な履修ガイダンスなどの機会や本学ホームページ上での本プログラムの解説を通じて、本プログラムで養われる能力やその重要性と有用性を明確に伝えることで履修意欲を向上させ、特にIT基礎講座への履修を促す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

情報リテラシーⅢは全学部・全学科における必修科目として位置づけられているため、全ての学生が確実に受講できる体制がすでに構築されている。

IT基礎講座については、全学の学生が自由に履修可能な共通基礎科目として開講されている。主たる講師が実際に講義を行う会場は、現代人間学科および健康スポーツ学科が設置されている聖カタリナ大学北条キャンパスであるが、看護学科が設置されている聖カタリナ大学松山市駅キャンパスに通学する学生も受講しやすいようにビデオ会議システムを活用したリアルタイムでの遠隔授業形式を導入する。なお、松山市駅キャンパスでは、北条キャンパスとは別の教員がリアルタイム遠隔授業形式の運用を行う。令和7年度においては、松山市駅キャンパスに受講生のいた履修登録期間前の初回のみ、松山市駅キャンパスにおけるリアルタイム遠隔授業形式を実施し、その実行可能性を確認している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムのうち、情報リテラシーⅢについては全学部・全学科における必修科目として位置づけられているため、全ての学生が受講する科目となっている。IT基礎講座については、全学の学生が自由に履修可能な共通基礎科目として開講されており、どの学年であっても受講可能であるため、各学生の履修状況に合わせて都合の良い年次に受講できることで、できる限り多くの学生が履修しやすい形となっている。

また、各学年における各学期開始時の履修ガイダンスや本学ホームページに掲載された本プログラムの解説ページを通じて、本プログラムで養われる能力やその重要性と有用性を明確に伝えている。これにより、学生のその後の社会生活における活用可能性を想像してもらうことで、IT基礎講座の履修意欲の向上を図る。また、全学部・全学科の1年次に受講する情報リテラシーⅢにおいて、IT基礎講座の本プログラムにおける位置づけを、1年次に受講しなかった学生に周知することで、次年度以降の履修を促す。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

情報リテラシーⅢは必修科目であるため、必ず履修の上、修得が求められる。学生の修得を促進するために、授業内で解説する内容や、グループワークの実施方法などについては、各科目担当による精査・改善を適宜行う。特にディスカッションやプレゼンテーションの実施においては、学生が取り組みやすい課題設定などを考案し、その改善を検討していく。

IT基礎講座においては、ビデオ会議システムを活用したリアルタイムでの遠隔授業形式で実施するため、その円滑な実施および学生の受講のために、講義が行われる会場と、その講義の様子を遠隔で受ける会場の双方に教員を配置するといった指導体制を取る。その実施にあたっての改善についても、適宜検討していく。

また、両科目ともに本学のLMS上に資料や課題を公開することで、多くの学生がいつでも講義に関する情報の閲覧が可能な環境を構築している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムにおける情報リテラシーⅡ、およびIT基礎講座の両科目ともに、授業前後での講師への質問を受け付けるといった基本的な取り組みだけでなく、授業時間内での小レポートやコメントシート記入の時間を設けることとし、その中での講師への質問を可能とする。また、授業内容への質問や相談があれば、オフィスアワーでの訪問やメールでの連絡などを通じて、授業時間外であっても担当教員からのサポートを得ることを推奨する。くわえて、本学におけるLMSにおいて、授業資料および課題の公開やアンケートの実施、教員からのフィードバックなども可能である。

特にIT基礎講座においては、地域のIT分野の企業より講師をお招きし、産学連携体制を重視した授業展開を行う。協力いただいた外部の特別講師からの学生へのフィードバックも、授業内およびLMSを通じて行うことで、本プログラムにおける学びが社会活動につながるように図っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会

(責任者名) 田村昌彦  
 (役職名) 教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本学教務課と連携して、プログラムの履修・修得状況を管理する体制を整えている。具体的には、学習管理システムである「UNIVERSAL PASSPORT」を活用して、受講者ごとの出席状況・課題進捗状況・単位修得状況を確認できる。具体的には、本システム上で講義資料および課題の公開や授業改善アンケートの実施が可能である。</p> <p>さらに、各学生の講義への出席状況や課題の進捗状況、あるいは授業改善アンケートの結果などを、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間で共有できる。これらを活用することで、本プログラムの履修・修得状況を点検・評価することが可能である。</p>
学修成果	<p>情報リテラシーIIIにおいては、授業の進行状況に合わせた課題を課すことに加え、実際にデータを分析し、その結果をプレゼンテーションの形式で発表される課題を課す。これらの取り組みや成果を評価することで、特にデータを読み、説明するといった、その扱いについて学修成果を評価できる。</p> <p>また、IT基礎講座においては、各回に小レポートを課すことで学生の学修成果を評価する。IT基礎講座では社会においてデータサイエンスやITがどのように活用されているかを教える科目であるため、各回の小レポートによって特に日常生活や社会の課題を解決する技術への理解について学修成果を評価できる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学教務課と連携して、情報リテラシーIIIにおいてもIT基礎講座においても、受講生全員に対し授業改善アンケートを実施しており、情報リテラシーIIおよびIT基礎講座それぞれへの理解度および満足度を測定できる。授業改善アンケートでは、定量的評価を目的とした多肢選択式項目に加え、自由記述項目も設けており、学生の本プログラムにおける理解の程度を確認することも可能である。</p> <p>その結果を、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間で共有し、分析・検証することで、学生の内容の理解度をより向上させるための改善体制を整えている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>情報リテラシーIIおよびIT基礎講座、各科目の期末において、本学の学習管理システムである「UNIVERSAL PASSPORT」を用いて、他学生への推奨度を問うアンケートを設け、各科目の他学生への推奨度を測定する。また、各科目の授業改善アンケートや、各授業回における課題の中に見られる、本プログラムの有益な点についての意見や感想などの記載も活用する。</p> <p>それらの結果については、できる限り多くの学生の履修につなげるための周知の取り組みに活かす資料とするとともに、各科目をより学生にとって有意義な授業とするための改善に活かす資料とする体制を整えている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムにおける情報リテラシーIIIについては、必修科目であるため全学生が確実に受講できる体制がすでに構築されている。そのため、学生が円滑に本科目を修得できるよう、学修支援体制をより改善するための検討を進めていく。</p> <p>IT基礎講座については、担当教員による授業改善の検討会を実施するなどして授業内容の改善を進め、履修ガイダンスや本学ホームページ上での周知などを通じて履修者数・履修率向上を図る。</p> <p>これらについては、履修者数や授業改善アンケートの回答を指標として、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間で分析・検証する体制を整えている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会にて、本プログラムの修了認定者の名簿を適切に管理する体制を整備している。また、本学就職委員会と連携して、修了者の進路先を把握し、卒業後の進路・社会での活躍状況の実態を可能な範囲で調査する。さらに、本学就職課が卒業1年の時点で卒業生および卒業生の進路先を対象として行っている調査を活用し、本プログラムを修了した卒業生における採用状況や業務状況、企業による評価を可能な範囲で把握する。</p> <p>それらのデータを、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間で分析・検証する体制を整えている。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムにおけるIT基礎講座においては、愛媛県内の数理・データサイエンス・AIに関連した実務に携わる企業の方に協力いただき、外部講師として講義いただいている。これら協力者と本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会のメンバーとで年に6回程度、懇談の場を設けている。また、愛媛県庁の産業人材について管轄する部署とも連携し、地域におけるIT人材の育成についての情報や意見を交換する機会も設けている。</p> <p>これらの体制を通じて、地域における本学の教育プログラムの意義、カリキュラムの改良、具体的な教授内容・方法などを話し合い、産学連携体制を重視した教育プログラムの改善を図っている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>情報リテラシーIIIにおいては、グループでのデータ分析・プレゼンテーションの実施を取り入れることで、学生同士の相互交流といった、学ぶ楽しさを感じ得る方法を取り入れている。</p> <p>IT基礎講座においては、数理・データサイエンス・AIに関連した実務に携わる企業の方による最先端の実践や、社会情勢について解説いただくことによって、現代社会におけるそれら技術を学ぶ意義を強く伝えられるよう意図している。</p> <p>これら取り組みについて、学生による授業改善アンケートや課題への回答内容などを活用し、本学情報教育センター数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会をはじめとした関係教員間にて評価し、改善につなげている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>各年度の授業実施前に科目担当教員や授業に関わる学外の協力者との打ち合わせを通じて、最新の社会状況の把握に努め、教育内容に反映させている。特にIT基礎講座においては、愛媛県内の数理・データサイエンス・AIに関連した実務に携わる企業の方の協力を得ており、これら外部講師による具体的な活用事例やそれを活かす企業人のロールモデルを示すことで、より具体的に数理・データサイエンス・AIを社会で活かすことを理解できるよう図っている。</p> <p>これら取り組みへの評価は、学生による授業改善アンケートや課題への回答内容などを活用する体制を整えており、各年度の授業内容を最新とし、その水準を維持・向上させるための改善を図っている。</p>

授業科目名	IT基礎講座【現人】				単位数	2単位	科目ナンバリング	BA-CH-LA-1
英文科目名	Information Technology Basic Lecture							
担当教員	黒田 卓哉、田村 昌彦							
配当学科・学年	2025年度 健康社会学部 現代人間学科 - 1年/2025年度 科目等履修・聴講 1年					開講学期	2025年度前学期	
授業形態	講義	担当形態	複数	関連資格				
授業の概要	<p>現代の社会には、デジタルに関する知識や技術をビジネス領域や地域社会に浸透させることで、人々の生活をより良いものへ変革していく、デジタルトランスフォーメーション（DX）が求められている。本授業では、DXの推進について最先端の知識と実践経験を持つ講師陣を学外からお呼びし、DXにおける重要なトピックについて学ぶ。</p> <p>本授業の目的は、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIといった知識・技術を日常生活、仕事などの場で使いこなすための基礎的素養を身につけることである。また、これらの知識・技術を扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、自らの意志でこれらからの恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることも目的とする。</p>							
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP①/DP②			ディプロマ・ポリシー一覧	<a href="#">【大学】DP一覧</a>			
到達目標	<p>① デジタル技術の最新動向を知ることによって、社会および日常生活が大きく変化していることを説明できる。</p> <p>② デジタル技術の活用領域を知ることによって、デジタル技術の広がりおよびその有用性を説明できる。</p> <p>③ デジタル技術の活用事例を知ることによって、価値の創出のために様々な知識や技術を組み合わせる重要性を説明できる。</p> <p>④ デジタル技術を活用する際の脅威や倫理について知ることによって、デジタル技術活用にあたっての留意事項について説明できる。</p>							
履修条件								
授業計画	授業内容/事前・事後学修（時間）/担当							
第1回	<p>【授業内容】 ガイダンス：ITの基礎的リテラシーと社会変化</p> <p>【事前・事後学修】 事前）シラバスの熟読とテキスト全体像の確認（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第2回	<p>【授業内容】 ITの活用領域の広がりこれから社会変化</p> <p>【事前・事後学修】 事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第3回	<p>【授業内容】 ITを広範囲で有用に活かすための考え方</p> <p>【事前・事後学修】 事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第4回	<p>【授業内容】 データを適切に読み解くための基礎知識①：データの種類・基本統計量</p> <p>【事前・事後学修】 事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第5回	<p>【授業内容】 データを適切に読み解くための基礎知識②：母集団と標本・相関関係と因果関係</p> <p>【事前・事後学修】 事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第6回	<p>【授業内容】 データを適切に説明するための基礎技術：図表としての可視化</p> <p>【事前・事後学修】 事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第7回	<p>【授業内容】 ITの活用事例と留意事項①：社会で活用されるビッグデータ</p> <p>【事前・事後学修】 事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第8回	<p>【授業内容】 ITの活用事例と留意事項②：データ・AIの技術としてのIoT</p> <p>【事前・事後学修】 事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第9回	<p>【授業内容】 ITの活用事例と留意事項③：データ・AIを何にどう活用するか</p> <p>【事前・事後学修】 事前）テキスト該当章の熟読（1時間）</p>							

	事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)			
第10回	<b>【授業内容】 ITの活用事例と留意事項④：生成AIの動向</b> <b>【事前・事後学修】 事前) テキスト該当章の熟読 (1時間)</b> 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)			
第11回	<b>【授業内容】 ITの活用事例と留意事項⑤：プログラミングを支える考え方とは</b> <b>【事前・事後学修】 事前) テキスト該当章の熟読 (1時間)</b> 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)			
第12回	<b>【授業内容】 ITを扱う際に注意すること：データ倫理とセキュリティ</b> <b>【事前・事後学修】 事前) テキスト該当章の熟読 (1時間)</b> 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)			
第13回	<b>【授業内容】 X Tech：X Techの定義、X Techによる既存業界の変容</b> <b>【事前・事後学修】 事前) テキスト該当章の熟読 (1時間)</b> 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)			
第14回	<b>【授業内容】 IT社会で求められる資質</b> <b>【事前・事後学修】 事前) テキスト該当章の熟読 (1時間)</b> 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)			
第15回	<b>【授業内容】 情報技術とこれからの社会生活との結びつき</b> <b>【事前・事後学修】 事前) テキスト該当章の熟読 (1時間)</b> 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)			
成績評価の方法・基準	受講態度 (10%)、各回小レポートの達成状況 (90%)			
課題等へのフィードバック	各回小レポートについては、授業内もしくはユニパを通じて適宜フィードバックを行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
[改訂新版] はじめてのAIリテラシー	岡嶋裕史・吉田雅裕	技術評論社	978-4-297-14407-4	
参考図書				
アクティブラーニング要素	基本的に講義形式で実施するが、必要に応じてグループディスカッションやパソコンを用いた演習などのアクティブラーニング要素を含んだ形式を用いることがある。			
ICT活用	Web学修システムの様々な機能を活用する。 また、場合によっては遠隔会議アプリを用いたシアター形式の授業や、実際にパソコンを用いた演習などを行うことがある。			
担当教員の実務経験と授業との関連	外部講師陣はデジタル技術を扱う最先端の現場で活躍なさってきた方々であり、その実践的な知見に基づいた講義が行われる。			
備考	授業中の私語や授業に関係のない行為は控えること。誠実に授業に取り組むことを期待します。 授業に関する質問や相談などあれば、下記メールアドレスまで連絡すること。 kuroda-t@catherine.ac.jp			
北条キャンパス教務課 (-2025)	1年	BA0060 IT基礎講座	BA00600 IT基礎講座【現人】	

授業科目名	IT基礎講座【健スポ】				単位数	2単位	科目ナンバリング	BA-HS-LA-1
英文科目名	Information Technology Basic Lecture							
担当教員	黒田 卓哉、田村 昌彦							
配当学科・学年	2025年度 健康社会学部 健康スポーツ学科 - 1年					開講学期	2025年度前学期	
授業形態	講義	担当形態	複数	関連資格				
授業の概要	<p>現代の社会には、デジタルに関する知識や技術をビジネス領域や地域社会に浸透させることで、人々の生活をより良いものへ変革していく、デジタルトランスフォーメーション（DX）が求められている。本授業では、DXの推進について最先端の知識と実践経験を持つ講師陣を学外からお呼びし、DXにおける重要なトピックについて学ぶ。</p> <p>本授業の目的は、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIといった知識・技術を日常の生活、仕事などの場で使いこなすための基礎的素養を身につけることである。また、これらの知識・技術を扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、自らの意志でこれらからの恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることも目的とする。</p>							
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP①			ディプロマ・ポリシー一覧	<a href="#">【大学】DP一覧</a>			
到達目標	<p>① デジタル技術の最新動向を知ることによって、社会および日常生活が大きく変化していることを説明できる。</p> <p>② デジタル技術の活用領域を知ることによって、デジタル技術の広がりおよびその有用性を説明できる。</p> <p>③ デジタル技術の活用事例を知ることによって、価値の創出のために様々な知識や技術を組み合わせる重要性を説明できる。</p> <p>④ デジタル技術を活用する際の脅威や倫理について知ることによって、デジタル技術活用にあたっての留意事項について説明できる。</p>							
履修条件								
授業計画	授業内容/事前・事後学修（時間）/担当							
第1回	<p>【授業内容】ガイダンス：ITの基礎的リテラシーと社会変化</p> <p>【事前・事後学修】事前）シラバスの熟読とテキスト全体像の確認（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第2回	<p>【授業内容】ITの活用領域の広がりこれから社会変化</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第3回	<p>【授業内容】ITを広範囲で有用に活かすための考え方</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第4回	<p>【授業内容】データを適切に読み解くための基礎知識①：データの種類・基本統計量</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第5回	<p>【授業内容】データを適切に読み解くための基礎知識②：母集団と標本・相関関係と因果関係</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第6回	<p>【授業内容】データを適切に説明するための基礎技術：図表としての可視化</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第7回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項①：社会で活用されるビッグデータ</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第8回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項②：データ・AIの技術としてのIoT</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							

第9回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項③：データ・AIを何にどう活用するか</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第10回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項④：生成AIの動向</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第11回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項⑤：プログラミングを支える考え方とは</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第12回	<p>【授業内容】ITを扱う際に注意すること：データ倫理とセキュリティ</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第13回	<p>【授業内容】X Tech：X Techの定義、X Techによる既存業界の変容</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第14回	<p>【授業内容】IT社会で求められる資質</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第15回	<p>【授業内容】情報技術とこれからの社会生活との結びつき</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
成績評価の方法・基準	受講態度 (10%)、各回小レポートの達成状況 (90%)			
課題等へのフィードバック	各回小レポートについては、授業内もしくはユニパを通じて適宜フィードバックを行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
[改訂新版] はじめてのAIリテラシー	岡嶋裕史・吉田雅裕	技術評論社	978-4-297-14407-4	
参考図書				
アクティブラーニング要素	基本的に講義形式で実施するが、必要に応じてグループディスカッションやパソコンを用いた演習などのアクティブラーニング要素を含んだ形式を用いることがある。			
ICT活用	Web学修システムの様々な機能を活用する。 また、場合によっては遠隔会議アプリを用いたシアター形式の授業や、実際にパソコンを用いた演習などを行うことがある。			
担当教員の実務経験と授業との関連	外部講師陣はデジタル技術を扱う最先端の現場で活躍なさってきた方々であり、その実践的な知見に基づいた講義が行われる。			
備考	授業中の私語や授業に関係のない行為は控えること。誠実に授業に取り組むことを期待します。 授業に関する質問や相談などあれば、下記メールアドレスまで連絡すること。 kuroda-t@catherine.ac.jp			
北条キャンパス教務課 (-2025)	1年	BB0060 IT基礎講座		BB00600 IT基礎講座 【健スポ】

授業科目名	IT基礎講座【看護】				単位数	2単位	科目ナンバリング	BA-NS-LA-1
英文科目名	Information Technology Basic Lecture							
担当教員	黒田 卓哉、田村 昌彦							
配当学科・学年	2025年度 看護学部 看護学科 - 1年					開講学期	2025年度前学期	
授業形態	講義	担当形態	複数	関連資格				
授業の概要	<p>現代の社会には、デジタルに関する知識や技術をビジネス領域や地域社会に浸透させることで、人々の生活をより良いものへ変革していく、デジタルトランスフォーメーション（DX）が求められている。本授業では、DXの推進について最先端の知識と実践経験を持つ講師陣を学外からお呼びし、DXにおける重要なトピックについて学ぶ。</p> <p>本授業の目的は、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIといった知識・技術を日常生活、仕事などの場で使いこなすための基礎的素養を身につけることである。また、これらの知識・技術を扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、自らの意志でこれらからの恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることも目的とする。</p>							
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP②/DP③			ディプロマ・ポリシー一覧	<a href="#">【大学】DP一覧</a>			
到達目標	<p>① デジタル技術の最新動向を知ることによって、社会および日常生活が大きく変化していることを説明できる。</p> <p>② デジタル技術の活用領域を知ることによって、デジタル技術の広がりおよびその有用性を説明できる。</p> <p>③ デジタル技術の活用事例を知ることによって、価値の創出のために様々な知識や技術を組み合わせる重要性を説明できる。</p> <p>④ デジタル技術を活用する際の脅威や倫理について知ることによって、デジタル技術活用にあたっての留意事項について説明できる。</p>							
履修条件								
授業計画	授業内容/事前・事後学修（時間）/担当							
第1回	<p>【授業内容】ガイダンス：ITの基礎的リテラシーと社会変化</p> <p>【事前・事後学修】事前）シラバスの熟読とテキスト全体像の確認（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第2回	<p>【授業内容】ITの活用領域の広がり与此れからの社会変化</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第3回	<p>【授業内容】ITを広範囲で有用に活かすための考え方</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第4回	<p>【授業内容】データを適切に読み解くための基礎知識①：データの種類・基本統計量</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第5回	<p>【授業内容】データを適切に読み解くための基礎知識②：母集団と標本・相関関係と因果関係</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第6回	<p>【授業内容】データを適切に説明するための基礎技術：図表としての可視化</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第7回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項①：社会で活用されるビッグデータ</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							
第8回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項②：データ・AIの技術としてのIoT</p> <p>【事前・事後学修】事前）テキスト該当章の熟読（1時間） 事後）講義内容の復習および小レポートの作成（3時間）</p>							

第9回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項③：データ・AIを何にどう活用するか</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第10回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項④：生成AIの動向</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第11回	<p>【授業内容】ITの活用事例と留意事項⑤：プログラミングを支える考え方とは</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第12回	<p>【授業内容】ITを扱う際に注意すること：データ倫理とセキュリティ</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第13回	<p>【授業内容】X Tech：X Techの定義、X Techによる既存業界の変容</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第14回	<p>【授業内容】IT社会で求められる資質</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
第15回	<p>【授業内容】情報技術とこれからの社会生活との結びつき</p> <p>【事前・事後学修】事前) テキスト該当章の熟読 (1時間) 事後) 講義内容の復習および小レポートの作成 (3時間)</p>			
成績評価の方法・基準	受講態度 (10%)、各回小レポートの達成状況 (90%)			
課題等へのフィードバック	各回小レポートについては、授業内もしくはユニパを通じて適宜フィードバックを行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
[改訂新版] はじめてのAIリテラシー	岡嶋裕史・吉田雅裕	技術評論社	978-4-297-14407-4	
参考図書				
アクティブラーニング要素	基本的に講義形式で実施するが、必要に応じてグループディスカッションやパソコンを用いた演習などのアクティブラーニング要素を含んだ形式を用いることがある。			
ICT活用	Web学修システムの様々な機能を活用する。 また、場合によっては遠隔会議アプリを用いたシアター形式の授業や、実際にパソコンを用いた演習などを行うことがある。			
担当教員の実務経験と授業との関連	外部講師陣はデジタル技術を扱う最先端の現場で活躍なさってきた方々であり、その実践的な知見に基づいた講義が行われる。			
備考	授業中の私語や授業に関係のない行為は控えること。誠実に授業に取り組むことを期待します。 授業に関する質問や相談などあれば、下記メールアドレスまで連絡すること。 kuroda-t@catherine.ac.jp			
松山市駅キャンパス事務局(-2025)	1年	F1144 IT基礎講座	F11440 IT基礎講座【看護】	

授業科目名	情報リテラシーⅡ【現人】				単位数	1単位	科目ナンバリング	BA-CH-FY-1
英文科目名	Information Literacy II							
担当教員	黒田 卓哉							
配当学科・学年	2025年度 健康社会学部 現代人間学科 - 1年/2025年度 科目等履修・聴講 1年					開講学期	2025年度後学期	
授業形態	演習	担当形態	単独	関連資格				
授業の概要	講義では、データサイエンスに関わる基礎知識や考え方を理解し、身につける。演習では、教科書に従った個人ワークを実施することで、基礎的なデータ分析のスキルを身につける。さらに、グループワークとして、データ分析を行い、その結果を可視化して資料とし、プレゼンテーションを実施する一連の体験を経て、データに基づいて思考し、主張するスキルを身につける。							
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP①			ディプロマ・ポリシー一覧	<a href="#">【大学】DP一覧</a>			
到達目標	<p>① データを読み、分析するための基礎を身につける。すなわち、数値データを扱うための統計的な基礎知識を理解し、実際にデータをExcelにて分析可能な形に加工し、簡単な分析を行うスキルを身につける。</p> <p>② データを用いたコミュニケーションができるようになる。すなわち、数値データを記述統計的に処理し、FigureやTableに可視化して、自らの主張を説得的にプレゼンテーションするスキルを身につける。</p> <p>③ 「情報社会の課題・情報セキュリティ・情報モラル」、「情報社会の基礎知識（ビッグデータ、IoT、生成AI、Society 5.0などの用語確認）」といった基礎的な用語を理解する。</p>							
履修条件								
授業計画	授業内容/事前・事後学修（時間）/担当							
第1回	<p>【授業内容】 ガイダンス：データリテラシーの重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事後) 講義内容および操作の復習 (1時間)</p>							
第2回	<p>【授業内容】 これからの情報社会の基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第3回	<p>【授業内容】 データの可視化の重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第4回	<p>【授業内容】 データ分析のための基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第5回	<p>【授業内容】 記述統計とは：データの要約</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第6回	<p>【授業内容】 データの比較から“仮説”を考える</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第7回	<p>【授業内容】 データの“代表値”と“分布”</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第8回	<p>【授業内容】 “偏差”とは：データのばらつき的重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							

第9回	【授業内容】平均と標準偏差の活用 【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第10回	【授業内容】散布図からわかる関係性 【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第11回	【授業内容】効果的なプレゼンテーションとは 【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第12回	【授業内容】プレゼンテーションのための準備 【事前・事後学修(時間)】 事後) プレゼンテーション準備 (1時間)			
第13回	【授業内容】情報モラルと情報セキュリティ 【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第14回	【授業内容】プレゼンテーション実践 【事前・事後学修(時間)】 事前) プレゼンテーション準備 (1.5時間)			
第15回	【授業内容】まとめ：これからのデータサイエンスのために 【事前・事後学修(時間)】 事前) 講義資料の確認 (0.5時間)			
成績評価の方法・基準	【授業内容】受講態度 (10%)、各回課題の達成状況 (90%)			
課題等へのフィードバック	各回課題について、授業内もしくはユニパを通じて解説を行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ数理・データサイエンス・AI	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-081-0	
参考図書				
アクティブラーニング要素	実際にパソコン操作を行う体験学習がある。			
ICT活用	コンピュータ室にてパソコンの様々な機能を使用する。また、Web学修システムの様々な機能を活用する。			
担当教員の実務経験と授業との関連	大学教員・研究者として、様々なICTスキルを活かした業務経験を基に、パソコン操作に関する実践力が身につくよう指導する。			
備考	授業中の私語や授業に関係のない行為は控えること。誠実に授業に取り組むことを期待します。 授業に関する質問や相談などあれば、下記メールアドレスまで連絡すること。 kuroda-t@catherine.ac.jp			
北条キャンパス教務課 (-2025)	1年	BA0050 情報リテラシー II	BA00500 情報リテラシー II 【現人】	

授業科目名	情報リテラシーⅡ【健スポA】				単位数	1単位	科目ナンバリング	BA-HS-FY-1
英文科目名	Information Literacy II							
担当教員	高山 小百合							
配当学科・学年	2025年度 健康社会学部 健康スポーツ学科 - 1年					開講学期	2025年度後学期	
授業形態	演習	担当形態	単独	関連資格	中学校教諭一種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健体育)			
授業の概要	<p>講義では、データサイエンスに関わる基礎知識や考え方を理解し、身につける。</p> <p>演習では、教科書に従った個人ワークを実施することで、基礎的なデータ分析のスキルを身につける。</p> <p>さらに、グループワークとして、データ分析を行い、その結果を可視化して資料とし、プレゼンテーションを実施する一連の体験を経て、データに基づいて思考し、主張するスキルを身につける。</p>							
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP①			ディプロマ・ポリシー一覧	<a href="#">【大学】DP一覧</a>			
到達目標	<p>① データを読み、分析するための基礎を身につける。すなわち、数値データを扱うための統計的な基礎知識を理解し、実際にデータをExcelにて分析可能な形に加工し、簡単な分析を行うスキルを身につける。</p> <p>② データを用いたコミュニケーションができるようになる。すなわち、数値データを記述統計的に処理し、FigureやTableに可視化して、自らの主張を説得的にプレゼンテーションするスキルを身につける。</p> <p>③ 「情報社会の課題・情報セキュリティ・情報モラル」、「情報社会の基礎知識（ビッグデータ、IoT、生成AI、Society 5.0などの用語確認）」といった基礎的な用語を理解する。</p>							
履修条件								
授業計画	授業内容/事前・事後学修（時間）/担当							
第1回	<p>【授業内容】 ガイダンス：データリテラシーの重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事後) 講義内容および操作の復習 (1時間)</p>							
第2回	<p>【授業内容】 これからの情報社会の基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第3回	<p>【授業内容】 データの可視化の重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第4回	<p>【授業内容】 データ分析のための基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第5回	<p>【授業内容】 記述統計とは：データの要約</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第6回	<p>【授業内容】 データの比較から“仮説”を考える</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第7回	<p>【授業内容】 データの“代表値”と“分布”</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第8回	<p>【授業内容】 “偏差”とは：データのばらつき的重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第9回	<p>【授業内容】 平均と標準偏差の活用</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第10回	<p>【授業内容】 散布図からわかる関係性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							

第11回	【授業内容】効果的なプレゼンテーションとは 【事前・事後学修(時間)】事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第12回	【授業内容】プレゼンテーションのための準備 【事前・事後学修(時間)】事後) プレゼンテーション準備 (1時間)			
第13回	【授業内容】情報モラルと情報セキュリティ 【事前・事後学修(時間)】事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第14回	【授業内容】プレゼンテーション実践 【事前・事後学修(時間)】事前) プレゼンテーション準備 (1.5時間)			
第15回	【授業内容】まとめ：これからのデータサイエンスのために 【事前・事後学修(時間)】事前) 講義資料の確認 (0.5時間)			
成績評価の方法・基準	受講態度 (10%)、各回課題の達成状況 (90%)			
課題等へのフィードバック	各回課題について、授業内もしくはユニパを通じて解説を行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ数理・データサイエンス・AI	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-081-0	
参考図書				
アクティブラーニング要素	パソコンを実際に操作する体験学習			
ICT活用	コンピュータ室で瞬快(理解度把握システム)使用 ユニパ「クラスプロファイル」の活用			
担当教員の実務経験と授業との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官公庁でのIT講習等の実施</li> <li>・中小企業での新入社員向けパソコン講習やレベルアップ講習の実施</li> <li>・若年層向けの就職支援セミナーの実施</li> <li>・MOS資格対策講座の実施</li> </ul> 様々なITスキルを活かした業務経験を基に、Word・Excel・PowerPointを使用した実践力と応用力を身に付けさせる。			
備考	授業中の私語や授業に関係のない行為は控えること。 授業内で操作した内容を、復習すること。 テキスト・配布プリント・USBメモリ・筆記用具を持参すること。 やむなく欠席した場合は、翌日までに掲示板に目を通し、授業内容を確認して次回授業までに操作したファイルを提出できるようにしておくこと。 その他伝達事項があれば、掲示板にて掲示する。			
北条キャンパス教務課(-2025)	1年	BB0050 情報リテラシーII	BB00500 情報リテラシーII 【健スポA】	

授業科目名	情報リテラシーⅡ【健スポB】				単位数	1単位	科目ナンバリング	BA-HS-FY-1
英文科目名	Information Literacy II							
担当教員	高山 小百合							
配当学科・学年	2025年度 健康社会学部 健康スポーツ学科 - 1年					開講学期	2025年度後学期	
授業形態	演習	担当形態	単独	関連資格	中学校教諭一種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健体育)			
授業の概要	<p>講義では、データサイエンスに関わる基礎知識や考え方を理解し、身につける。</p> <p>演習では、教科書に従った個人ワークを実施することで、基礎的なデータ分析のスキルを身につける。</p> <p>さらに、グループワークとして、データ分析を行い、その結果を可視化して資料とし、プレゼンテーションを実施する一連の体験を経て、データに基づいて思考し、主張するスキルを身につける。</p>							
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP①			ディプロマ・ポリシー一覧	<a href="#">【大学】DP一覧</a>			
到達目標	<p>① データを読み、分析するための基礎を身につける。すなわち、数値データを扱うための統計的な基礎知識を理解し、実際にデータをExcelにて分析可能な形に加工し、簡単な分析を行うスキルを身につける。</p> <p>② データを用いたコミュニケーションができるようになる。すなわち、数値データを記述統計的に処理し、FigureやTableに可視化して、自らの主張を説得的にプレゼンテーションするスキルを身につける。</p> <p>③ 「情報社会の課題・情報セキュリティ・情報モラル」、「情報社会の基礎知識（ビッグデータ、IoT、生成AI、Society 5.0などの用語確認）」といった基礎的な用語を理解する。</p>							
履修条件								
授業計画	授業内容/事前・事後学修（時間）/担当							
第1回	<p>【授業内容】 ガイダンス：データリテラシーの重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事後) 講義内容および操作の復習 (1時間)</p>							
第2回	<p>【授業内容】 これからの情報社会の基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第3回	<p>【授業内容】 データの可視化の重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第4回	<p>【授業内容】 データ分析のための基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第5回	<p>【授業内容】 記述統計とは：データの要約</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第6回	<p>【授業内容】 データの比較から“仮説”を考える</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第7回	<p>【授業内容】 データの“代表値”と“分布”</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第8回	<p>【授業内容】 “偏差”とは：データのばらつき的重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第9回	<p>【授業内容】 平均と標準偏差の活用</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							
第10回	<p>【授業内容】 散布図からわかる関係性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>							

第11回	【授業内容】効果的なプレゼンテーションとは 【事前・事後学修(時間)】事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第12回	【授業内容】プレゼンテーションのための準備 【事前・事後学修(時間)】事後) プレゼンテーション準備 (1時間)			
第13回	【授業内容】情報モラルと情報セキュリティ 【事前・事後学修(時間)】事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第14回	【授業内容】プレゼンテーション実践 【事前・事後学修(時間)】事前) プレゼンテーション準備 (1.5時間)			
第15回	【授業内容】まとめ：これからのデータサイエンスのために 【事前・事後学修(時間)】事前) 講義資料の確認 (0.5時間)			
成績評価の方法・基準	受講態度 (10%)、各回課題の達成状況 (90%)			
課題等へのフィードバック	各回課題について、授業内もしくはユニパを通じて解説を行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ数理・データサイエンス・AI	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-081-0	
参考図書				
アクティブラーニング要素	パソコンを実際に操作する体験学習			
ICT活用	コンピュータ室で瞬快(理解度把握システム)使用 ユニパ「クラスプロファイル」の活用			
担当教員の実務経験と授業との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官公庁でのIT講習等の実施</li> <li>・中小企業での新入社員向けパソコン講習やレベルアップ講習の実施</li> <li>・若年層向けの就職支援セミナーの実施</li> <li>・MOS資格対策講座の実施</li> </ul> 様々なITスキルを活かした業務経験を基に、Word・Excel・PowerPointを使用した実践力と応用力を身に付けさせる。			
備考	授業中の私語や授業に関係のない行為は控えること。 授業内で操作した内容を、復習すること。 テキスト・配布プリント・USBメモリ・筆記用具を持参すること。 やむなく欠席した場合は、翌日までに掲示板に目を通し、授業内容を確認して次回授業までに操作したファイルを提出できるようにしておくこと。 その他伝達事項があれば、掲示板にて掲示する。			
北条キャンパス教務課(-2025)	1年	BB0050 情報リテラシーII	BB00501 情報リテラシーII 【健スポB】	

授業科目名	情報リテラシー II (A)			単位数	1単位	科目ナンバリング	BA-NS-FY-1
英文科目名	Information Literacy II						
担当教員	高山 小百合						
配当学科・学年	2020～2023年度 人間健康福祉学部 看護学科 - 1年 / 2024～2025年度 看護学部 看護学科 - 1年 / 2024年度 科目等履修・聴講 1年				開講学期	2025年度 後学期	
授業形態	演習	担当形態	単独	関連資格	看護師・必、保健師・必		
授業の概要	<p>講義では、データサイエンスに関わる基礎知識や考え方を理解し、身につける。</p> <p>演習では、教科書に従った個人ワークを実施することで、基礎的なデータ分析のスキルを身につける。</p> <p>さらに、グループワークとして、データ分析を行い、その結果を可視化して資料とし、プレゼンテーションを実施する一連の体験を経て、データに基づいて思考し、主張するスキルを身につける。</p>						
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP③			ディプロマ・ポリシー一覧	<a href="#">【大学】DP一覧</a>		
到達目標	<p>① データを読み、分析するための基礎を身につける。すなわち、数値データを扱うための統計的な基礎知識を理解し、実際にデータをExcelにて分析可能な形に加工し、簡単な分析を行うスキルを身につける。</p> <p>② データを用いたコミュニケーションができるようになる。すなわち、数値データを記述統計的に処理し、FigureやTableに可視化して、自らの主張を説得的にプレゼンテーションするスキルを身につける。</p> <p>③ 「情報社会の課題・情報セキュリティ・情報モラル」、「情報社会の基礎知識（ビッグデータ、IoT、生成AI、Society 5.0などの用語確認）」といった基礎的な用語を理解する。</p>						
履修条件							
授業計画	授業内容/事前・事後学修（時間）/担当						
第1回	<p>【授業内容】 ガイダンス：データリテラシーの重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) シラバスの熟読とテキスト全体像の確認 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第2回	<p>【授業内容】 これからの情報社会の基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>						
第3回	<p>【授業内容】 データの可視化の重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>						
第4回	<p>【授業内容】 データ分析のための基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>						
第5回	<p>【授業内容】 記述統計とは：データの要約</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第6回	<p>【授業内容】 データの比較から“仮説”を考える</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第7回	<p>【授業内容】 データの“代表値”と“分布”</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第8回	<p>【授業内容】 “偏差”とは：データのばらつき的重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第9回	<p>【授業内容】 平均と標準偏差の活用</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p>						

	事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)			
第10回	【授業内容】 散布図からわかる関係性 【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)			
第11回	【授業内容】 効果的なプレゼンテーションとは 【事前・事後学修(時間)】 事前) 講義資料の確認 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第12回	【授業内容】 プレゼンテーションのための準備 【事前・事後学修(時間)】 事前) 講義資料の確認 (0.5時間) 事後) プレゼンテーション準備 (0.5時間)			
第13回	【授業内容】 情報モラルと情報セキュリティ 【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第14回	【授業内容】 プレゼンテーション実践 【事前・事後学修(時間)】 事前) プレゼンテーション準備 (1.5時間)			
第15回	【授業内容】 まとめ：これからのデータサイエンスのために 【事前・事後学修(時間)】 事前) 講義資料の確認 (0.5時間)			
成績評価の方法・基準	受講態度 (10%)、各回課題の達成状況 (90%)			
課題等へのフィードバック	各回課題について、授業内もしくはユニパを通じて解説を行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ数理・データサイエンス・AI	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-081-0	
参考図書				
アクティブラーニング要素	パソコンを実際に操作する体験学習			
ICT活用	コンピュータ室で瞬快 (理解度把握システム) 使用 ユニパ「クラスプロファイル」の活用			
担当教員の実務経験と授業との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官公庁でのIT講習等の実施</li> <li>・中小企業での新入社員向けパソコン講習やレベルアップ講習の実施</li> <li>・若年層向けの就職支援セミナーの実施</li> <li>・MOS資格対策講座の実施</li> </ul> 様々なITスキルを活かした業務経験を基に、Word・Excel・PowerPointを使用した実践力と応用力を身に付けさせる。			
備考	授業中の私語や授業に関係のない行為は控えること。 授業内で操作した内容を、復習すること。 テキスト・配布プリント・USBメモリ・筆記用具を持参すること。 やむなく欠席した場合は、翌日までに掲示板に目を通し、授業内容を確認して次回授業までに操作したファイルを提出できるようにしておくこと。 その他伝達事項があれば、掲示板にて掲示する。			
松山市駅キャンパス事務局(-2025)	1年	F1035 情報リテラシー II	F10350 情報リテラシー II (A)	

授業科目名	情報リテラシー II (B)			単位数	1単位	科目ナンバリング	BA-NS-FY-1
英文科目名	Information Literacy II						
担当教員	高山 小百合						
配当学科・学年	2020～2023年度 人間健康福祉学部 看護学科 - 1年 / 2024～2025年度 看護学部 看護学科 - 1年 / 2024年度 科目等履修・聴講 1年				開講学期	2025年度 後学期	
授業形態	演習	担当形態	単独	関連資格	看護師・必、保健師・必		
授業の概要	<p>講義では、データサイエンスに関わる基礎知識や考え方を理解し、身につける。</p> <p>演習では、教科書に従った個人ワークを実施することで、基礎的なデータ分析のスキルを身につける。</p> <p>さらに、グループワークとして、データ分析を行い、その結果を可視化して資料とし、プレゼンテーションを実施する一連の体験を経て、データに基づいて思考し、主張するスキルを身につける。</p>						
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP③			ディプロマ・ポリシー一覧	<a href="#">【大学】DP一覧</a>		
到達目標	<p>① データを読み、分析するための基礎を身につける。すなわち、数値データを扱うための統計的な基礎知識を理解し、実際にデータをExcelにて分析可能な形に加工し、簡単な分析を行うスキルを身につける。</p> <p>② データを用いたコミュニケーションができるようになる。すなわち、数値データを記述統計的に処理し、FigureやTableに可視化して、自らの主張を説得的にプレゼンテーションするスキルを身につける。</p> <p>③ 「情報社会の課題・情報セキュリティ・情報モラル」、「情報社会の基礎知識（ビッグデータ、IoT、生成AI、Society 5.0などの用語確認）」といった基礎的な用語を理解する。</p>						
履修条件							
授業計画	授業内容/事前・事後学修（時間）/担当						
第1回	<p>【授業内容】 ガイダンス：データリテラシーの重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) シラバスの熟読とテキスト全体像の確認 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第2回	<p>【授業内容】 これからの情報社会の基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>						
第3回	<p>【授業内容】 データの可視化の重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>						
第4回	<p>【授業内容】 データ分析のための基礎知識</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容の復習 (0.5時間)</p>						
第5回	<p>【授業内容】 記述統計とは：データの要約</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第6回	<p>【授業内容】 データの比較から“仮説”を考える</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第7回	<p>【授業内容】 データの“代表値”と“分布”</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第8回	<p>【授業内容】 “偏差”とは：データのばらつき的重要性</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p> <p>事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間)</p> <p>事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)</p>						
第9回	<p>【授業内容】 平均と標準偏差の活用</p> <p>【事前・事後学修(時間)】</p>						

	事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)			
第10回	【授業内容】 散布図からわかる関係性 【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容および操作の復習 (0.5時間)			
第11回	【授業内容】 効果的なプレゼンテーションとは 【事前・事後学修(時間)】 事前) 講義資料の確認 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第12回	【授業内容】 プレゼンテーションのための準備 【事前・事後学修(時間)】 事前) 講義資料の確認 (0.5時間) 事後) プレゼンテーション準備 (0.5時間)			
第13回	【授業内容】 情報モラルと情報セキュリティ 【事前・事後学修(時間)】 事前) テキスト該当章の予習 (0.5時間) 事後) 講義内容の復習 (0.5時間)			
第14回	【授業内容】 プレゼンテーション実践 【事前・事後学修(時間)】 事前) プレゼンテーション準備 (1.5時間)			
第15回	【授業内容】 まとめ：これからのデータサイエンスのために 【事前・事後学修(時間)】 事前) 講義資料の確認 (0.5時間)			
成績評価の方法・基準	受講態度 (10%)、各回課題の達成状況 (90%)			
課題等へのフィードバック	各回課題について、授業内もしくはユニパを通じて解説を行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ数理・データサイエンス・AI	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-081-0	
参考図書				
アクティブラーニング要素	パソコンを実際に操作する体験学習			
ICT活用	コンピュータ室で瞬快 (理解度把握システム) 使用 ユニパ「クラスプロファイル」の活用			
担当教員の実務経験と授業との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官公庁でのIT講習等の実施</li> <li>・中小企業での新入社員向けパソコン講習やレベルアップ講習の実施</li> <li>・若年層向けの就職支援セミナーの実施</li> <li>・MOS資格対策講座の実施</li> </ul> 様々なITスキルを活かした業務経験を基に、Word・Excel・PowerPointを使用した実践力と応用力を身に付けさせる。			
備考	授業中の私語や授業に関係のない行為は控えること。 授業内で操作した内容を、復習すること。 テキスト・配布プリント・USBメモリ・筆記用具を持参すること。 やむなく欠席した場合は、翌日までに掲示板に目を通し、授業内容を確認して次回授業までに操作したファイルを提出できるようにしておくこと。 その他伝達事項があれば、掲示板にて掲示する。			
松山市駅キャンパス事務局(-2025)	1年	F1035 情報リテラシー II	F10351 情報リテラシー II (B)	

現代人間学科 2025年度入学生（1年生）教育課程表

無印：講義 △：演習 ○：実験・実習、実技 □：併用

科目区分	授業科目	開講年次	開講学期		単位数		資格要件					備考
			前期	後期	必修	選択	社会調査士	公認心理師	認定心理士	社会福祉士	DS・AI実務パスポート	
大学専攻科目	基礎演習Ⅰ-a	1	○		△1							
	基礎演習Ⅰ-b	1		○	△1							
	基礎演習Ⅱ-a	2	○		△1							
	基礎演習Ⅱ-b	2		○	△1							
	日本語リテラシー	1	○		2							
	情報リテラシーⅠ	1	○		△1							
	情報リテラシーⅡ	1		○	△1							
	キャリアデザイン	1		○	2							
	IT基礎講座	1	○		2							必修
	宗教学概論	1		○	2							
	キリスト教学A	1	○		2							
	キリスト教学B	1		○	2							
	倫理学概論	1		○	2							
	経済学概論	1	○		2							
	経営学概論	1		○	2							
	憲法概説	1	○		2							
地域文化論	1	○		2								
えひめ共同授業	1	集中		2								
現代社会特別講義Ⅰ	1	○		1							※開講せず	
現代社会特別講義Ⅱ	1		○	1								
英語コミュニケーションⅠ	1	○		△1								
英語コミュニケーションⅡ	1		○	△1								
実用英語Ⅰ	2	○		△1								
実用英語Ⅱ	2		○	△1								
応用英語Ⅰ	3	○		△1								
応用英語Ⅱ	3		○	△1								
スペイン語Ⅰ	2	○		△1								
スペイン語Ⅱ	2		○	△1								
韓国語Ⅰ	2	○		△1								
韓国語Ⅱ	2		○	△1								
基礎日本語Ⅰ-a	1	○		△1							外国人留学生対象	
基礎日本語Ⅰ-b	1		○	△1							外国人留学生対象	
基礎日本語Ⅱ-a	2	○		△1							外国人留学生対象	
基礎日本語Ⅱ-b	2		○	△1							外国人留学生対象	
保健体育	健康スポーツ実践	1		○	□1							
合計		35科目			16							

(共通基礎科目の履修方法) ※編入学生の履修方法については別に定める。  
必修科目16単位を含み合計25単位以上を共通基礎科目から修得

(注) 開講年次・学期は変更することがある。

科目区分	授業科目	開講年次	開講学期		単位数		資格要件					備考
			前期	後期	必修	選択	社会調査士	公認心理師	認定心理士	社会福祉士	DS・AI実務パスポート	
学科基礎科目	社会学概論	1	○		2						必修	
	心理社会調査論	1	○		2			必修			選必	必修
	心理社会調査法	1		○	2			必修			選必	選択
	心理学概論Ⅰ	1	○		2				必修		必修	
	心理学概論Ⅱ	1		○	2				必修		必修	
	ソーシャルワーク基礎	1	○		2							
	高齢者福祉	1		○	2							必修
	キャリアスタディ	2	○		2							選択
	ICTスキル演習Ⅰ	2	○		△1							選択
	ICTスキル演習Ⅱ	2		○	△1							選択
	情報システム基礎	2	○		2							選択
	プログラミング基礎	3	○		2							選択
	プログラミング応用	3		○	2							選択
	データ分析の基礎	2	○		2			必修			選必	必修
	量的データの解析	2		○	2			必修			選必	選択
	社会調査実習Ⅰ	3	○		○1			必修				
社会調査実習Ⅱ	3		○	○1			必修					
経済社会学	4		○	2								
教育社会学	2	○		2								
地域社会学	2		○	2								
組織社会学	3	○		2								
ジェンダーの社会学	3		○	2								
医療社会学	3	○		2								
都市社会学	4	○		2								
国際社会学	4	○		2								
マーケティング論	3		○	2								
会計学基礎Ⅰ	2	○		2								
会計学基礎Ⅱ	2		○	2								
臨床心理学概論	2	○		2			必修			選必		
公認心理師の職業	4		○	2			必修			選必		
社会・集団・家族心理学	2	○		2			必修			選必		
心理学的支援法	2		○	2			必修			選必		
心理学研究法	2	○		2			必修			選必		
心理学統計法	2		○	2			必修			選必	選択	
教育・学校心理学	3	○		2			必修			選必		
障害者・障害児心理学	3	○		2			必修			選必		
知覚・認知心理学	2		○	2			必修			選必		
神経・生理心理学	3	○		2			必修			選必		
健康・医療心理学	4	○		2			必修			選必		
心理的アセスメント	3	○		2			必修			選必	心理・メンタルヘルスコース限定	
発達心理学	3	○		2			必修			選必		
コミュニケーションの心理学	3		○	2			必修			選必		
産業・組織心理学	3	○		2			必修			選必		
司法・犯罪心理学	3	○		2			必修			選必		
感情・人格心理学	3	○		2			必修			選必		
学習・言語心理学	3	○		2			必修			選必		
心理学実験Ⅰ	2		○	△2			必修			選必	心理・メンタルヘルスコース限定	
心理学実験Ⅱ	3	○		△2			必修			選必	心理・メンタルヘルスコース限定	
福祉心理学	4		○	2			必修			選必		
心理演習	3		○	△2			必修			選必	心理・メンタルヘルスコース限定	

教育課程表

科目区分	授業科目	開講年次	開講学期		単位数		資格要件					備考
			前期	後期	必修	選択	社会調査士	公認心理師	認定心理士	社会福祉士	DS-AI実務/レポート	
専門教育科目	ソーシャルワークコース	社会福祉の原理と政策Ⅰ	3	○		2					必修	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	3		○	2					必修	
		社会保険Ⅰ	3		○	2					必修	
		社会保険Ⅱ	4	○		2					必修	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	○		2					必修	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2		○	2					必修	
		貧困に対する支援	3	○		2					必修	
		保健医療と福祉	2		○	2					必修	
		ソーシャルワークの基礎と専門職	2	○		2					必修	
		ソーシャルワークの基礎と専門職(専門)	2		○	2					必修	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	○		2					必修	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2		○	2					必修	
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	3	○		2					必修	
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	3		○	2					必修	
		障害者福祉	2	○		2					必修	
		児童・家庭福祉	2	○		2					必修	
		権利擁護を支える法制度	2		○	2					必修	
		社会福祉調査の基礎	3	○		2					必修	
		刑事司法と福祉	3		○	2					必修	
		福祉サービスの組織と経営	3		○	2					必修	
		心理学と心理的支援	2	○		2					必修	
		ソーシャルワーク演習	2		○	△1					必修	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	3	○		△2					必修	
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	3		○	△2					必修	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ-a	2	○		△1					必修	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ-b	2		○	△1					必修	
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	2		○	○2					必修	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	○		○4					必修		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	○		△1					必修		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3		○	△1					必修		
	専門演習科目	インターンシップⅠ	3	○		□2						
		インターンシップⅡ	3		○	△1						
		専門演習Ⅰ	3	○	○	△2						
専門演習Ⅱ		4	○	○	△2				選必			
関連科目	卒業研究論文	4	○	○	△4							
	人体の構造と機能及び疾病	2	○		2			必修		必修		
	精神疾患とその治療Ⅰ	2	○		2			必修				
	精神疾患とその治療Ⅱ	2		○	2			必修				
	国際交流演習海外研修	1	○		△2							
	心理実習	4	○		○2			必修	選必		心理・メンタルヘルスコース限定	
	関係行政論	4	○		2			必修			心理・メンタルヘルスコース限定	
福祉特講Ⅰ	4	○		2								
福祉特講Ⅱ	4		○	2								
合計		93科目			18	162						
総計		128科目			34	193						

(専門教育科目の履修方法) ※編入学生の履修方法については別に定める。  
2年次から選択するコースによって次のとおり単位を修得すること。

<社会・データコース>

- 必修科目18単位(学科基礎科目14単位・専門演習Ⅰ及びⅡ4単位)
- 以下の(1)と(2)を含んで展開科目から40単位以上
  - 社会・データの科目区分から選必修科目6単位以上を含み20単位以上
  - 心理・メンタルヘルス、ソーシャルワークの科目区分の選必修科目からそれぞれ2単位以上
- 上記1.及び2.の単位を含み、専門教育科目から99単位以上を修得すること。

<心理・メンタルヘルスコース>

- 必修科目18単位(学科基礎科目14単位・専門演習Ⅰ及びⅡ4単位)
- 以下の(1)と(2)を含んで展開科目から40単位以上
  - 心理・メンタルヘルスの科目区分から選必修科目6単位以上を含み20単位以上
  - 社会・データ、ソーシャルワークの科目区分の選必修科目からそれぞれ2単位以上
- 上記1.及び2.の単位を含み、専門教育科目から99単位以上を修得すること。

<ソーシャルワークコース>

- 必修科目18単位(学科基礎科目14単位・専門演習Ⅰ及びⅡ4単位)
- 以下の(1)と(2)を含んで展開科目から40単位以上
  - ソーシャルワークの科目区分から選必修科目6単位以上を含み20単位以上
  - 社会・データ、心理・メンタルヘルスの科目区分の選必修科目からそれぞれ2単位以上
- 上記1.及び2.の単位を含み、専門教育科目から99単位以上を修得すること。

○社会・データコースの選必修科目は「データ分析の基礎」「地域社会学」「ジェンダーの社会学」「国際社会学」

○心理・メンタルヘルスコースの選必修科目は「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「発達心理学」「コミュニケーションの心理学」

○ソーシャルワークコースの選必修科目は「社会福祉の原理と政策Ⅰ」「社会福祉の原理と政策Ⅱ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅱ」

(注)開講年次・学期は変更することがある。



科目区分	授業科目	開講年次	開講学期		単位数		資格要件								備 考								
			前期	後期	必修	選択	健康運動指導士	健康運動実践指導者	パラ	レク	中教免(保体)	高教免(保体)	スポーツコーチ・インストラクター	ジュニアスポーツ指導員									
専門教育科目	基礎科目 教職コース	体づくり運動	2	○		○1															①教育職員免許状取得には、1科目選択 ②教育職員免許状取得には、1科目選択 ③		
		球技 (バスケットボール)	1	○		○1																	
		球技 (サッカー・フットサル)	1		○		○1																
		球技 (ラケットスポーツ)	2	○			○1																
		球技 (バレーボール)	1	Aクラス	Bクラス		○1																
		球技 (ソフトボール)	1	Bクラス	Aクラス		○1																
		器械運動	2		○		○1																
		水泳	2	○			○1	必修	必修														
		陸上競技	2		○		○1																
		武道 (剣道)	3		○		○1																
		ダンス	3	○			○1																
		スポーツ史	2	○			2																
		教育社会学	3	○			2																
		発達心理学	3	○			2																
		精神保健	3	○			2																
		衛生学・公衆衛生学	2	○			2																
		学校保健	3		○		2																
	専門演習科目	専門演習 I	3	○	○	△2																	
		専門演習 II	4	○	○	△2																	
		卒業研究	4	○	○		△4																
	関連科目	社会福祉概論	2		○		2																
		地域社会学	2		○		2																
		会計学基礎 I	3	○			2																
		会計学基礎 II	3		○		2																
		福祉心理学	4		○		2																
		経済社会学	4		○		2																
		ジェンダーの社会学	4		○		2																
国際交流演習海外研修	1		集中		△2																		
合計		77科目			22	113																	
総計		114科目			41	145																	

(専門教育科目の履修方法) ※編入学生の履修方法については別に定める2年次から選択するコースによって次のとおり単位を修得すること。

<健康・レクリエーションコース>

1. 必修科目22単位 (学科基礎科目18単位・専門演習 I 及び II 4単位)
2. 健康・レクリエーションコースの科目区分から20単位以上
3. 上記1. 及び2. の単位を含み、専門教育科目から99単位以上を修得

<コーチ・マネジメントコース>

1. 必修科目22単位 (学科基礎科目18単位・専門演習 I 及び II 4単位)
2. コーチ・マネジメントコースの科目区分から20単位以上
3. 上記1. 及び2. の単位を含み、専門教育科目から99単位以上を修得

<教職コース>

1. 必修科目22単位 (学科基礎科目18単位・専門演習 I 及び II 4単位)
2. 教職コース科目14単位以上を含み、専門教育科目の中の資格要件の教職必修科目を20単位以上
3. 上記1. 及び2. の単位を含み、専門教育科目から99単位以上を修得

(注) 開講年次・学期は変更することがある。

教育職員免許状取得のための開講科目

科目区分	授業科目	開講年次	開講学期		単位数		資格要件								備 考							
			前期	後期	必修	選択	健康運動指導士	健康運動実践指導者	パラ	レク	中教免(保体)	高教免(保体)	スポーツコーチ・インストラクター	ジュニアスポーツ指導員								
教職科目	教職論	2	○			2															卒業要件単位に含めることはできない 教職コースの学生(教育職員免許状資格履修者)に限り受講することができる  高一種免取得は、2単位以上選択必修	
	教育原理	2	○			2																
	学校と教育の歴史	3		○		2																
	教育心理学	2	○			2																
	教育課程論	2		○		2																
	保健体育科教育法 I	2	○			2																
	保健体育科教育法 II	2		○		2																
	保健体育科教育法 III	3	○			2																
	保健体育科教育法 IV	3		○		2																
	道徳教育指導論	4	○			2																
	特別支援教育総論	3	○			1																
	総合的な学習の時間の指導法	3		○		1																
	特別活動の理論と方法	3		○		2																
	教育の方法と技術	3	○			1																
	ICT活用の理論と方法	2		○		1																
	生徒・進路指導論	4	○			2																
	教育相談の理論と方法	4		○		2																
	教育実習事前・事後指導	3・4	4年	3年		△1																
	教育実習 I	4	○			○4																
	教育実習 II	4	○			○2																
教職実践演習(中・高)	4		○		△2																	

(注) 開講年次・学期は変更することがある。



# 履修ガイド

看護学科 2025 年度入学生 教育課程表

無印：講義 △：演習 ○：実験・実習、実技 □：併用

科目区分	授業科目	開講年次	単位数		資格要件		備考	
			必修	選択	看護師	保健師		
共通基礎科目	大学導入	基礎演習Ⅰ	1前	△1		必修	必修	
		基礎演習Ⅱ	1後	△1		必修	必修	
		日本語リテラシー	1前	2		必修	必修	
		情報リテラシーⅠ	1前	△1		必修	必修	
		情報リテラシーⅡ	1後	△1		必修	必修	
	教養科目	キリスト教学A	1前	2		必修	必修	
		キリスト教学B	1後	2		必修	必修	
		人権と人道	1前		1	選必	選必	※選択必修②7科目から2単位以上
		文学の世界	1前	2		必修	必修	
		人間の成長と発達	2前	2		必修	必修	
		人間関係論	1前	△1		必修	必修	
		医療の社会学	1前		2	選必	選必	
		経済学入門	1後		2	選必	選必	※選択必修②7科目から2単位以上
		教育学入門	1後		2	選必	選必	
		基礎環境科学	2前		2	選必	選必	
		英語Ⅰ-a	1前	△1		必修	必修	
		英語Ⅰ-b	1後	△1		必修	必修	
		英語Ⅱ-a	1前	△1		必修	必修	
		英語Ⅱ-b	1後	△1		必修	必修	
		スペイン語a	1前		△1			
		スペイン語b	1後		△1			※選択必修③4科目から1単位以上
		中国語a	1前		△1			
		中国語b	1後		△1			
		日本国憲法	1前	2		必修	必修	
社会福祉論	2前	1		必修	必修			
ボランティア論	1前		1			※選択必修②7科目から2単位以上		
えひめ共同授業	1前		2					
IT基礎講座	1前		2					
体育健	健康とスポーツ	1前	1		必修	必修		
	体育実技	1後	○1		必修	必修		
合計		30科目	24	18				

(共通基礎科目の履修方法)

1. 必修科目 24 単位・・・①
2. 「人権と人道、医療の社会学、経済学入門、教育学入門、基礎環境科学、ボランティア論、えひめ共同授業」から 2 単位以上・・・②
3. 「スペイン語 a、スペイン語 b、中国語 a、中国語 b」から 1 単位以上・・・③
4. ①、②、③の単位を含み合計 27 単位以上を共通基礎科目から修得

科目区分	授業科目	開講年次	単位数		資格要件		備考	
			必修	選択	看護師	保健師		
専門基礎科目	人を理解する	基礎生物学	1前	1		必修	必修	
		基礎生物化学	1前	1		必修	必修	
		基礎生物物理学	1前	1		必修	必修	
		人体構造学Ⅰ	1前	1		必修	必修	
		人体構造学Ⅱ	1後	1		必修	必修	
		生体機能学Ⅰ	1後	1		必修	必修	
		生体機能学Ⅱ	1後	1		必修	必修	
		生体防御・感染管理学	1後	1		必修	必修	
		病理・病態学	1後	1		必修	必修	
		診断と治療	1後	1		必修	必修	
		外科系疾患と治療	2前	1		必修	必修	
		内科系疾患と治療	2前	1		必修	必修	
		臨床病態学	2後	1		必修	必修	
		食生活と栄養	2前	1		必修	必修	
		人体と薬物	2前	1		必修	必修	
		人間工学	2後		1			
	疫学	2後		2		必修		
	産業保健論	3前	1		必修	必修		
	臨床工学・臨床検査	2後	1		必修	必修		
	人と関わる	医学・医療論	1後	1		必修	必修	
		生命倫理学	2前	1		必修	必修	
		関係法規	1後	1		必修	必修	
		行動科学論	2前	1		必修	必修	
		カウンセリング論	2後	△1		必修	必修	
リハビリテーション論	2前	1		必修	必修			
専門科目	看護の基礎を学ぶ 看護実践を学ぶ	看護学概論	1前	2		必修	必修	
		看護倫理	3前	1		必修	必修	
		看護理論	1後	1		必修	必修	
		看護情報学	2後	1		必修	必修	
		看護管理論	4前		2	選必	選必	
		看護教育論	4前		2	選必	選必	※選択必修④8科目から4単位以上
		看護過程Ⅰ	1後	1		必修	必修	
		看護過程Ⅱ	2後	1		必修	必修	



## 履修ガイド

看護の基礎を学ぶ	感染管理看護論	1 後	1		必修	必修	
	基礎看護技術 I (共通技術)	1 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	基礎看護技術 II (日常生活)	1 後	△ 2		必修	必修	
	基礎看護技術 III (診療の補助)	2 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	基礎看護学実習 I	1 前	○ 1		必修	必修	
	基礎看護学実習 II	2 後	○ 2		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	成人期の看護 I (概論)	2 前	1		必修	必修	
	成人期の看護 II - i (急性期看護方法論)	2 後	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	成人期の看護 II - ii (慢性期看護方法論)	2 後	△ 1		必修	必修	
	成人期の看護 III (技術演習)	3 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	看護援助学 I (呼吸・循環)	2 前	△ 1		必修	必修	
	看護援助学 II (食事・排泄)	2 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	看護援助学 III (活動・休息)	2 前	△ 1		必修	必修	
	看護援助学 IV (認知・行動)	2 後	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	看護援助学 V (総合演習)	2 後	△ 1		必修	必修	
	老年期の看護 I (概論)	2 前	1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	老年期の看護 II (方法論)	2 後	△ 1		必修	必修	
	老年期の看護 III (技術演習)	3 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	成育看護学 I - i (母性看護学概論)	2 後	1		必修	必修	
	成育看護学 II - i (母性看護方法論)	3 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	成育看護学 III - i (母性看護技術演習)	3 前	△ 1		必修	必修	
	成育看護学 I - ii (小児看護学概論)	2 前	1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	成育看護学 II - ii (小児看護方法論)	2 後	△ 1		必修	必修	
	成育看護学 III - ii (小児看護技術演習)	3 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	精神看護学 I (概論)	2 後	1		必修	必修	
	精神看護学 II (方法論)	3 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	精神看護学 III (技術演習)	3 前	△ 1		必修	必修	
	地域・在宅看護論 I (概論)	2 前	1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	地域・在宅看護論 II (方法論)	2 後	△ 1		必修	必修	
	地域・在宅看護論 III (技術演習)	3 前	△ 1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	家族看護学	3 前	1		必修	必修	
	地域看護学 I	2 前	1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	地域看護学 II	2 後	△ 1		必修	必修	
	公衆衛生看護学概論	2 後	1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	公衆衛生看護学活動論 I	2 後		2	選必	必修	※選択必修⑤ 8科目から4単位以上 (保健師課程は必修)
	公衆衛生看護学活動論 II	3 前		△ 1	選必	必修	
看護の基礎を学ぶ	健康政策形成論	4 前		2	選必	必修	
	健康サービス開発論	3 前		□ 1	選必	必修	
看護の基礎を学ぶ	学校保健論	3 前		1	選必	必修	
	地域生活支援論	2 前	1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	健康保健教育論	3 前		2	選必	必修	※選択必修⑤ 8科目から4単位以上 (保健師課程は必修)
	看護保健統計学	3 前	□ 2		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	成人・老年看護学実習 I	3 後～4 前	○ 3		必修	必修	
	成人・老年看護学実習 II	3 後～4 前	○ 2		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	成人・老年看護学実習 III	3 後～4 前	○ 3		必修	必修	
	成育看護学実習 I (母性看護学実習)	3 後～4 前	○ 2		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	成育看護学実習 II (小児看護学実習)	3 後～4 前	○ 2		必修	必修	
	精神看護学実習	3 後～4 前	○ 2		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	地域・在宅看護論実習	3 後～4 前	○ 2		必修	必修	
	健康・療養支援実習	3 後	○ 2		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	公衆衛生看護学実習	4 前		○ 5		必修	
	看護研究 I	3 後	1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	看護研究 II	4 後	△ 1		必修	必修	
	国際看護学	3 前		1	選必	選必	※選択必修⑥ 7科目から2単位以上 =国際看護学の履修を前提とする。
国際看護学演習	3 前集中		△ 1	選必	選必		
看護の基礎を学ぶ	多職種連携論	3 前	2		必修	必修	
	地域連携統合実習	4 前	○ 2		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	ボランティア活動実習	3 前集中		○ 1	選必	選必	※選択必修⑥ 7科目から2単位以上
	災害医療論	1 後	1		必修	必修	
看護の基礎を学ぶ	災害看護学活動論	2 前集中	1		必修	必修	
	公衆衛生看護学特論	4 後		□ 1		必修	※選択必修⑥ 7科目から2単位以上
赤十字救急法	1 前	△ 1		必修	必修		
看護の基礎を学ぶ	赤十字健康生活支援講習	1 後		△ 1	選必	選必	※選択必修⑥ 7科目から2単位以上
	赤十字水上安全法	2 前		△ 1	選必	選必	
看護の基礎を学ぶ	赤十字幼児安全法	2 後		△ 1	選必	選必	
	合計	98 科目	96	28			
総計	128 科目	120	46				

(専門基礎科目・専門科目の履修方法)

- 必修科目 96 単位・・・④
- 「看護管理論、看護教育論、公衆衛生看護学活動論 I、公衆衛生看護学活動論 II、健康政策形成論、健康サービス開発論、学校保健論、健康保健教育論」から 4 単位以上・・・⑤
- 「国際看護学、国際看護学演習、ボランティア活動実習、公衆衛生看護学特論、赤十字健康生活支援講習、赤十字水上安全法、赤十字幼児安全法」から 2 単位以上・・・⑥
- ④・⑤・⑥の単位を合計 102 単位以上を専門基礎科目・専門科目から修得

## ○聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部情報教育センターに関する規程

### （趣旨）

第1条 聖カタリナ大学・聖カタリナ短期大学部（以下「本学」という）の情報システムを適切に管理運営するために、本学に情報教育センター（以下「センター」という）を設置する。

### （目的）

第2条 センターは、本学の情報処理設備および情報ネットワークを一元的かつ効率的に運用し、本学における情報教育研究・情報リテラシー教育・学術情報サービス・情報通信および情報事務に必要な情報処理機能を提供し、教育研究および大学運営に係る総合的な支援を行うことを目的とする。

### （業務）

第3条 センターは本学の情報システムを統括し、次の各号に掲げる業務を行う。

- （1）情報システムの中・長期計画の策定に関すること。
- （2）センターの年間事業計画に関すること。
- （3）事務局、附属図書館、北条キャンパス及び松山市駅キャンパスにおける情報処理システムの整備・運用・管理に関すること。
- （4）情報ネットワークシステムの整備・運用に関すること。
- （5）学生の情報処理教育・研究の方針、提供機能に係る支援に関すること。
- （6）その他第2条の目的を達成するために必要であると思われる事項。

### （構成員）

第4条 運営を遂行するためセンターに次の構成員を置く。

- （1）センター長
- （2）副センター長
- （3）センター員

#### （センター長）

第4条の2 センターにセンター長1名を置く。

- 2 センター長は専任教員の中から学長が任命する。
- 3 センター長はセンターを代表しその業務を統括する。
- 4 センター長の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。
- 5 センター長が欠員となった場合の後任者の任期は前任者の残任期間とする。

#### （副センター長）

第4条の3 センターに副センター長1名を置く。

- 2 副センター長は、事務職員の中から事務局長の推薦により学長が任命する。
- 3 副センター長は、センター長を補佐しシステムの整備保全に努めなければならない。
- 4 副センター長の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。
- 5 副センター長が欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（センター員）

第4条の4 学長はセンターの効果的な運営のためセンター員を置く。

- 2 センター員は、大学および短期大学部の各学科長が当該学科の専任教員から若干名を、事務局長が北条キャンパス及び松山市駅キャンパスの事務職員の中から各1名をそれぞれ学長に推薦し、学長が任命した者。
- 3 センター員はセンター長の命によりセンターの業務を担当する。
- 4 センター員の任期は1年とする。
- 5 センター員が欠員となった場合の後任者は補充しない。

（運営委員会）

第5条 センターの業務を遂行し、適切な管理運営を行うため、情報教育センター運営委員会（以下「委員会」という）を置き次の各号の者をもって構成する。

- (1) 委員長（センター長）
  - (2) 副センター長
  - (3) センター員
  - (4) 会計課長
- 2 委員長は委員会を招集し、その議長になる。
  - 3 委員会は構成員の3分の2以上が出席しなければ会議を開くことができない。
  - 4 委員会の議事は、出席委員の過半数によって決し、可否同数の時は委員長が決する。
  - 5 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。
  - 6 委員長は、委員会の取り扱い事項のうち特に重要と判断するものについて学長に報告しなければならない。

（委員会の任務）

第5条の2 委員会は次の事項を審議し、センターの基幹業務の具現化を図らなければならない。

- (1) 業務のICT化に関する企画立案・推進に関する事項
- (2) システム関連設備、機器及びソフトウェア等の新規導入、更新及び廃止等の計画に関する事項
- (3) システムの維持、管理、運用に関する事項
- (4) 情報セキュリティのための基盤整備及び維持管理に関する事項
- (5) 他大学等との教育連携に係るICT関連の支援に関する事項
- (6) 情報教育に関する教育計画立案・推進、改善・進化、点検・評価に関する事項

（7）その他委員会が所掌することが適当であると委員長が認める事項

（数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会）

第5条の3 情報教育に関する計画立案・推進、改善・進化、点検・評価のうち、数理・データサイエンス・AI教育を実施するため、数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会を設置する。

2 数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会についての必要な事項は、委員会が別に定める。

（事務）

第6条 センターに関する事務、委員会に関する事務、及び、数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会に関する事務は会計課が処理する。

（規程の改廃）

第7条 この規程の改廃は委員会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は2025（令和7）年4月1日に施行する。

## ○聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部情報教育センター 数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会設置要綱

（設置）

第1条 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部情報教育センターに関する規程第5条の3に基づき、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを立案・推進、改善・進化し、また、自己点検・評価を行うために数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会（以下、専門部会）を設置する。

（専門部会）

第2条 次の各号の者をもって構成する。

- （1） センター長
  - （2） 副センター長
  - （3） センター員
  - （4） 会計課長
  - （5） 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの授業科目を担当する教員
- 2 センター長は専門部会を招集し、その議長になる。
- 3 専門部会は構成員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 4 専門部会の議事は、出席委員の過半数によって決し、可否同数の時は議長が決する。
- 5 センター長が必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。
- 6 センター長は、専門部会の取り扱い事項のうち特に重要と判断するものについて学長に報告しなければならない。

（専門部会の任務）

第3条 専門部会は次の事項を審議することとする。

- （1） 数理・データサイエンス・AI教育の基本方針の立案・推進
- （2） 数理・データサイエンス・AI教育の改善・進化
- （3） 数理・データサイエンス・AI教育の自己点検・評価

（規程の改廃）

第4条 この規程の改廃は運営委員会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は2025（令和7）年4月1日に施行する。

大学等名	聖カタリナ大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	聖カタリナ大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）	申請年度	令和7年度

## 取組概要

### ①プログラムの目的

現代社会においては、デジタル社会の実現に向けて、数理・データサイエンス・AIを理解し、活用できる人材が求められています。そのような社会の要望に応えることを目的に、本プログラムでは数理・データサイエンス・AIについての基礎的な知識・技術を身につける人材育成を行います。

### ②身につけられる能力

本プログラムによって学生は、社会におけるデータやAI技術の活用についての仕組みや活用方法を理解したり、情報セキュリティに関する必要な知識を身につけたり、データの加工・分析の基礎スキルやデータの適切な解釈の力を身につけることができます。

③開講されている科目の構成 (科目名・単位数)	情報リテラシーII (1単位)	IT基礎講座 (2単位)
1-1. 社会で起きている変化	○	○
1-2. 社会で活用されているデータ	○	○
1-3. データ・AIの活用領域		○
1-4. データ・AI利活用のための技術		○
1-5. データ・AI利活用の現場		○
1-6. データ・AI利活用の最新動向	○	○
2-1. データを読む	○	○
2-2. データを説明する	○	○
2-3. データを扱う	○	
3-1. データ・AIを扱う上での留意事項	○	○
3-2. データを守る上での留意事項	○	○

### ④修了要件

- ◆ 「情報リテラシーII」（1単位）、「IT基礎講座」（2単位）の2科目計3単位を修得すること。
- ◆ 当該2科目は各学科およびクラス指定のものを受講すること。なお、各科目の内容は同一である。

### 本プログラム運営

**組織：** 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部  
情報教育センター  
数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会

**運営構成員：**

健康社会学部現代人間学科 教授 田村昌彦  
健康社会学部現代人間学科 准教授 黒田卓哉  
健康社会学部現代人間学科 助教 島村真理子  
健康社会学部健康スポーツ学科 教授 皆川孝昭  
看護学部看護学科 講師 齋藤希望  
短期大学部保育学科 助教 荒西伸吾  
健康社会学部健康スポーツ学科 看護学部看護学科  
兼任教員 高山小百合  
会計課 池田哲  
教務課 砂野佑介  
事務部局 稲田有伊子